

平成 30 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究事業

「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査」報告  
及び  
ワークショップ

日本社会事業大学社会事業研究所

2019 年 3 月

## I. はじめに

本調査報告及びワークショップの目的は、平成 29 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究事業により実施した「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査」(清瀬市後援)の報告と、調査結果を踏まえた話題提供によるワークショップの開催を通じ、関係機関・関係者等が世代や対象分野を超えたつながりをつくり、市民の健やかな生活と心をつむぐ支援をより一層推進していくための課題と方策について検討することである。

「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査」は、清瀬市内のサービス提供機関や任意団体・関係者等を対象に、各関係機関・関係者が日頃利用者から見聞きしている生活課題、さらに、当該機関・関係者が直接対応する生活課題を超えているが地域で支援していく必要があるともいえる潜在的ニーズを把握することを目的としたものであった。この調査報告とその調査結果を踏まえた話題提供によるワークショップにより、

- 制度上対応している各分野の関係機関・団体・関係者が対応している生活課題やその対応方法、連携・協働機関等を知る
- 各分野の対象層や制度を越えてはいるが、把握あるいは対応している生活課題を掘り起こす
- 「全世代・全対象型地域包括支援体制」に向けた、保健・医療・福祉等の専門機関・住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させる、連携・協働へ向けた課題や方策を検討する。

なお、本企画は、平成 30 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究事業の助成を受け、実施した。

## Ⅱ. プログラム

日時:平成30年 12月 20日(木)10:00～12:00

会場:日本社会事業大学 A 棟401教室

対象:福祉従事者, 一般市民, 学生, 研究者

【参加者】40 名

(行政関係者 5 名, 民間機関・団体 23 名, 学生 6 名, 研究者 5 名, 大学職員 1 名)

【プログラム】 司会進行:贅川信幸(日本社会事業大学社会福祉学部 准教授)

記録写真:壬生尚美(日本社会事業大学社会福祉学部 教授)



1. あいさつ(下垣光:日本社会事業大学社会福祉学部 教授)

平成 29 年度「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査」のお礼

本調査報告及びワークショップの主旨



## 2. 調査報告(木村容子:日本社会事業大学社会福祉学部 教授)

『清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査』報告書(簡易版)に基づき、調査結果の概要について説明



## 3. ワークショップ(倉持香苗:日本社会事業大学社会福祉学部 講師)

### 【目的】

- ① 清瀬市内の地域生活課題について理解した上で、課題解決のためにできそうな支援は何か考える。
- ② グループワークを通じ、清瀬市内で活動している各分野の団体が情報を交換する機会とする。

### 【グループワークの準備】

- ① 清瀬市内の地域生活課題については、「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査」の設問4「あなた(事業所)が充分に対応できていない生活課題あるいは対応するサービスが無いといった生活課題について教えてください」を活用した。具体的には、自由記述で回答いただいた内容を支援対象者層(高齢者分野、子ども分野、民生委員・児童委員、サロン・多分野、障がい者分野)ごとに分類した上で、それぞれカテゴリー分析し、大項目をカード化した(全76枚)。
- ② グループワークの際に、どの分野の回答(カード)なのかわかるよう、領域別に色を指定し、それぞれのカードの枠に色をつけた(例えば高齢者分野は黄色、子ども分野は赤など)。
- ③ グループワークを通じて、清瀬市内で活動する多分野の団体に対する理解が深まるよう、多分野の参加者により構成されるグループを編成した。

### 【グループワークの方法】

- ① 各グループで、76 枚のカードの内容を確認しながら、類似しているカードを集めてグループ化する。
- ② グループ化したカードのまとめごとに、見出しを付ける(黄色の付箋)。
- ③ 分類したカードを模造紙に並べて整理し、全体を確認しながら、各自で、所属団体に「すでに取り組んでいること」(水色の付箋)、「これから取り組むことが出来そうな支援」(ピンクの付箋)を書き出す。

※この際、記入者が所属する団体の領域がわかるよう、付箋の右下にカラーペンで印をつける(色は、カードの枠を囲んだ色と同様)。

- ④ 完成した模造紙の内容を確認しながら、付箋に記入した内容について話し合う。途中で新しいアイデアが浮かんだ場合は、その都度、付箋に記入して貼る。

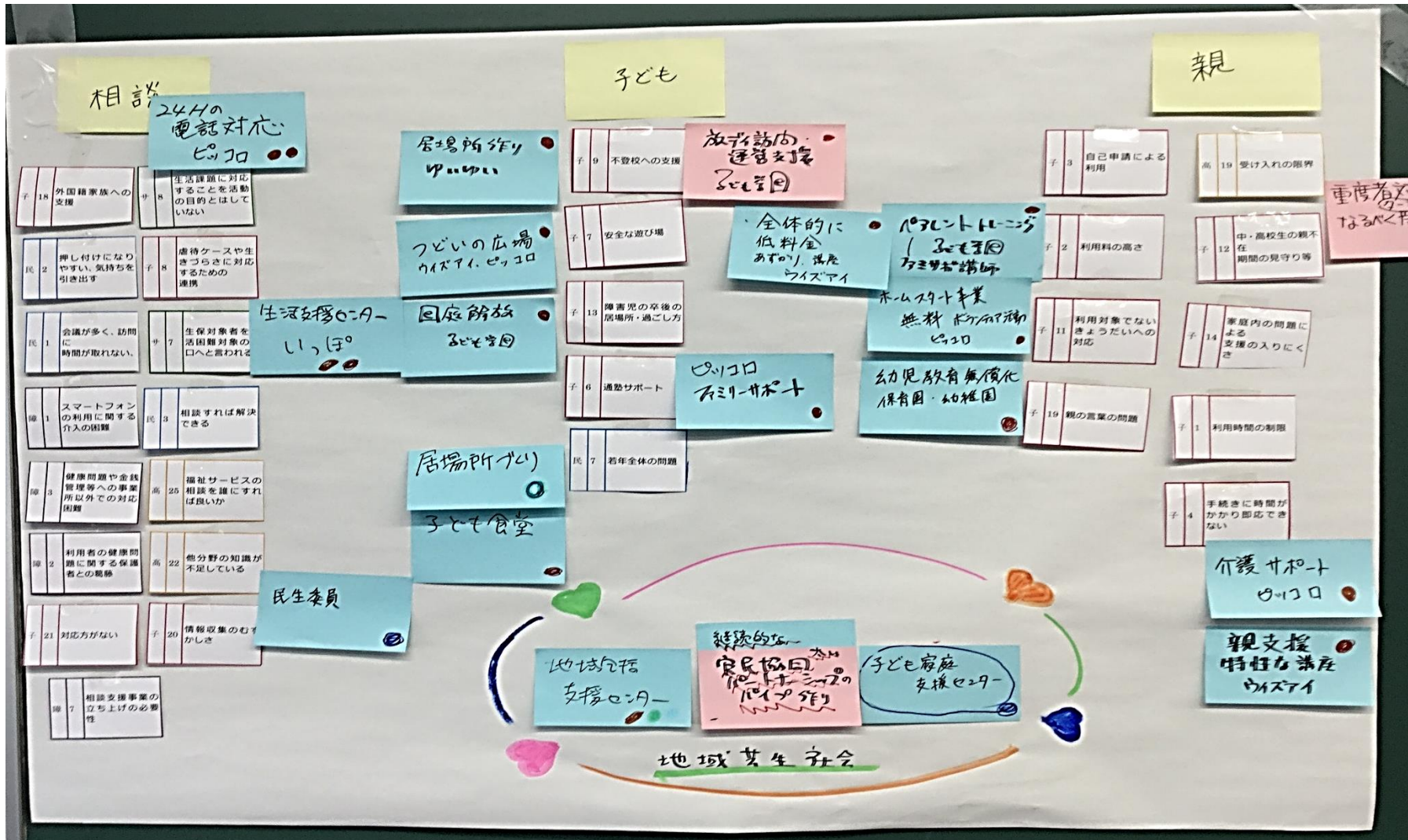
※多分野で取り組みそうな内容の付箋の右下には、複数の色が付く。







### Ⅲ. ワークショップにおける各グループのまとめ









# 時間

高 6	24時間緊急対応できる環境整備の必要性	高 11	緊急も相談を含めたコールセンター
高 10	24Hでの緊急対応できる環境を整備したい	高 13	コールセンター緊急又は、相談の窓口
高 8	土、日、祝日及び夜間の対応	高 1	利用時間の制限
高 13	精神の利用者の増加、対応時間の制約	高 9	早朝、延長サービス
高 4	夜間対応		

24H電話を  
受け入れ

# 移動

高 5	移動困難・送迎手段がない
高 2	移動手段が地域によって少ない
高 1	買い物の困難さ
高 6	買い物困難
高 4	通院以外の外出
高 6	通院サポート

(送迎サービス) 送迎

買い物・通院の  
ついでに代行

# 相談

高 7	相談支援事業の立ち上げの必要性
高 21	ケアマネージャーに相談しにくい
高 3	相談すれば解決できる
高 25	福祉サービスの相談を誰にすれば良いか
高 2	押し付けになりやすい、気持ちを引き出す
高 2	利用者の健康問題に関する保健師との連絡

ファットに  
相談

IT-ガジェット  
タイムコ・ラジオ  
(市川情報)

移動式  
保健教室

# サービス(不足)

高 20	障害福祉サービス利用者の高齢化	高 14	介護者へのサービス	高 3	ペットの世話
高 14	介護者へのサービス	高 5	創製なサービスがない	高 5	事業企画
高 5	創製なサービスがない	高 17	障害全体的問題	高 12	中高生との親不在、船越の留守り等
高 17	障害全体的問題	高 5	電球が点くなど	高 5	医療と福祉の制度の違いで利用者への対応が困難
高 5	電球が点くなど	高 24	入居した利用者を持つことができない現状	高 10	障美児への支援
高 15	親の障害への支援	高 9	不登校への支援	高 11	利用対象でない対応
高 24	入居した利用者を持つことができない現状	高 12	高齢的なニーズが早い方の受け入れ	高 6	貧困の少なさ
高 9	不登校への支援	高 17	高齢的なニーズが早い方の受け入れ	高 10	経済

自立支援の  
心

障害支援サービス  
(有償)

相談ボランティア

フレンドリー  
SSW(LINE)

# ハード面

高 1	移動車のバリアフリー化
高 18	車イスの形の受け入れ
高 4	高齢のハード面の課題のため車椅子の導入が必要
高 4	車道がない
高 13	障害児の事業の再開・進捗
高 2	避難訓練の頻度
高 7	安全な運行
高 3	福祉も動かす電化設備がない

18歳以下  
24時間



支援者利用  
課題  
専門性

高 21	対応がない	高 8	虐待ケースや生きづらさに対応するための連携	高 23	他分野の知識が不足している
高 16	生活力の欠如	高 19	受け入れの限界	高 26	十分に対応できない生活課題
高 18	外国籍家族への支援	高 14	家庭内の問題による支援の入りにくさ	高 1	スマートフォンの利用に関する介入の困難
高 8	生活課題に対応することを活動の目的としていない	高 20	情報収集のむずかしさ	高 1	会議が多く、訪問時間が取れない
高 7	生保対象者を生活困窮対象の窓口へと言われる	高 23	ボランティアと利用者のマッチング		

支援者の  
養成講座

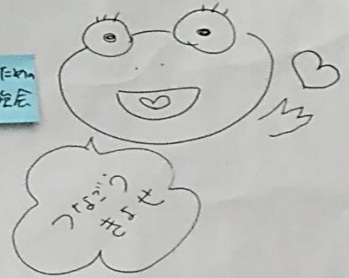
シニア向けの  
支援者養成講座  
(ボロワ)

他世代交流の  
イベント

# 制度

高 3	自己申請による利用	高 2	利用料の高さ
高 5	介護保険制度	高 17	生保受給家族への経済的支援
高 4	手続きに時間がかかり対応できない	高 15	契約で保証人がいない
高 7	入居サービスの複数回利用	高 3	健康問題や金銭管理等への事業所訪問での対応困難

制度周知のFam  
講演会 勉強会



生活

医療

介護

環境整備

高 16	利用者の孤独の解消
高 6	買い物困難
高 5	移動困難・送迎手段がない
高 26	十分に対応できない生活課題
高 5	家事支援
高 20	障害福祉サービス利用者の高齢化
高 9	早朝、延長サービス
高 4	通院以外の外出
高 3	ペットの世話
子 16	生活力の欠如
高 5	気軽なサービスがない
子 17	生保受給家庭への経済的支援
高 1	買い物の困難さ
高 2	移動手段が地域によって少ない
民 4	夜間対応
民 6	資源の少なさ
高 14	独居者へのサービス

受給者証発行  
主治医紹介  
障害福祉カ

介護サポート  
ピッコロ

理容店探し  
3rd floor

子どもの一時預かり  
シズアイ

養育支援訪問  
ピッコロ

24時間対応  
シズアイ

24H対応  
訪問保育  
ピッコロ

サロン  
ハコブ防  
体作り

空き家  
空きスペース活用

子 10 障害児への支援

高 15 契約で保証人がいない

高 13 精神の利用者の増加、対応時間の制約

高 12 コールセンター緊急又は、相談の窓口

高 11 緊急も相談を含めたコールセンター

高 17 医療的なニーズが高い方の受け入れ

障 5 医療と福祉の制度の間で利用者への対応

成年後見制度

介護保険適用外  
アパート居即  
ピッコロ

介護全般の相談  
相談→相談  
支援カ  
3rd floor

地域包括  
連携センター

地域包括  
連携センター  
Dr.指示あり  
利用で対応  
ワケイ法律

区療相談室  
との連携

フォーマルとインフォーマル  
の連携  
連携!!

定例AAAT  
利用者  
情報交流会

利用者支援事業  
検討、いっぽと  
サービスもつなぐ

高 23 ボランティアと利用者のマッチング

高 21 クアマネージャーに職業しにくい。

民 5 介護保険関連

高 18 車イスの方の受け入れ

高 24 入院した利用者を持つことができない現状

高 8 土、日、祝日及び夜間の対応

子 15 親の障害への支援

高 7 入浴サービスの取組

ボラセン  
生活支援  
コーディネーター

ワケイ法律  
ダイヤサービス  
ワケイ

11月30日は  
まっています  
ワケイ法律

ショートステイの  
利用

ワケイ法律  
養育支援訪問  
介護サポート  
ピッコロ

ダイヤサービス  
入浴サービス

高 1 活動場のバリアフリー化

高 10 24Hでの緊急対応できる環境を整備したい

高 4 24時間緊急対応できる環境整備の必要性

高 4 施設の手回しの課題のため車椅子の受け入れ困難

高 6 電球をかえるなど

高 3 身体を動かす場所や設備がない

高 2 厨房設備の縮小

高 4 常設でない

生活好きサービス  
(ピッコロ、7、24H対応)

ワケイ法律  
充実

地域で  
いっしょに暮らす  
(今研究課題)  
ワケイ法律

対応  
ワケイ法律







**居場所**

高 10 障害児への受入れ  
高 16 利用者の施設の家賃  
高 13 障害児の卒業の居場所・過ごし方  
高 7 安全な遊び場  
高 9 不登校へ  
高 12 中・高校生との親不在・関係の維持等

**移動手段**

高 2 移動サポート  
高 5 移動困難・送迎手段がない  
高 2 移動手段が地域によって少ない  
高 1 買い物の困難さ  
高 6 買い物困難

**サービスの提供時間**

高 10 24hでの緊急対応できる環境を整備したい  
高 8 土、日、祝日及び夜間の対応  
高 1 利用時間の制限  
高 4 夜間対応  
高 9 朝晩、延長サービス  
高 11 精神の利用者の制約  
高 24 24時間できる必要は  
高 24 24時間電話対応

**場所の問題 (バリアフリー)**

高 1 活動場のバリアフリー化  
高 4 施設ハード面の課題のため椅子の受入れが困難  
高 18 車イスの方の受け入れ  
高 2 関係設備の縮小

**買・物**

高 1 買い物の困難さ  
高 6 買い物困難

**経済**

高 17 生保受給家庭への経済的支援  
高 12 利用料の高さ  
高 11 緊急相談窓口  
高 12 コールセンター  
高 7 相談支援事業の立ち上げの必要性  
高 3 相談すれば解決できる  
高 20 情報収集のむずかしさ  
高 25 福祉サービスの相談をすれば良いか  
高 17 助成金による低価格保障  
高 18 外国籍家族への支援  
高 19 親の言葉の問題

**緊急相談窓口・対応**

高 11 緊急相談窓口  
高 12 コールセンター  
高 7 相談支援事業の立ち上げの必要性  
高 3 相談すれば解決できる  
高 20 情報収集のむずかしさ  
高 25 福祉サービスの相談をすれば良いか

**生活支援**

高 3 ペットの世話  
高 5 家事支援  
高 26 十分に対応できない生活課題  
高 16 生活力の欠如  
高 6 電球をかえるなど  
高 5 気軽にサービスがない  
高 14 独居者へのサービス  
高 4 通院以外の外出

**困難ケース対応**

高 19 受け入れの限界  
高 8 虐待ケースや生きづらさに対応するための連携  
高 14 家内での問題による支援の入りにくさ  
高 22 他分野の知識が不足している

**言葉の問題**

高 18 外国籍家族への支援  
高 19 親の言葉の問題

**施設やサービスの現状・限界**

高 7 入浴サービスの徹底利用  
高 17 医療的なニーズが高い方の受け入れ  
高 24 入浴した利用者ができない現状  
高 21 ケアマネージャーに埋まらにくい  
高 5 介護保険関係  
高 15 契約で保証人がいない  
高 4 手続きに時間がかかり対応できない  
高 3 自己申請による利用

**契約手続き**

高 15 契約で保証人がいない  
高 4 手続きに時間がかかり対応できない  
高 3 自己申請による利用

**その他 (未分類)**

高 1 スマートフォンの利用に関する外出の困難  
高 11 利用対象でないきょうだいへの対応  
高 2 利用者の健康問題に関する保護者との連携  
高 3 健康問題や金融管理費への事業所以外での対応困難  
高 4 開設でない  
高 1 会議が多く、訪問に時間がかからない  
高 23 ボランティアと利用者のマッチング  
高 2 押し付けになりやすい、気持ちを引き出す  
高 8 生活課題に対応することを活動の目的としていない  
高 7 若年層の問題

**介護保険 + 障害福祉 (福祉)**

高 20 又利用者の高齢化  
高 7 生保対象者を生活困難対象の窓口へと振り回れる  
高 14 家内での問題による支援の入りにくさ  
高 22 他分野の知識が不足している

**低料金で**

高 17 助成金による低価格保障

## 研究組織

### 【平成 29 年度共同研究事業】

研究代表者 贄川信幸（日本社会事業大学 社会福祉学部 准教授）  
共同研究者 木村容子（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
共同研究者 倉持香苗（日本社会事業大学 社会福祉学部 講師）  
共同研究者 壬生尚美（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
共同研究者 下垣 光（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
研究協力者 安高真弓（日本社会事業大学 社会事業研究所 共同研究員）  
調査補助者 三隅千歩（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  星野 愛（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  渡邊陽真（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  松江郁香（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  岩崎鮎子（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  松尾あゆみ（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  羽田真里花（日本社会事業大学 社会福祉学部）

### 【平成 30 年度共同研究事業】

研究代表者 竹内幸子（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
共同研究者 木村容子（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
共同研究者 倉持香苗（日本社会事業大学 社会福祉学部 講師）  
共同研究者 下垣 光（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
共同研究者 贄川信幸（日本社会事業大学 社会福祉学部 准教授）  
共同研究者 壬生尚美（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
共同研究者 金子能宏（日本社会事業大学 社会福祉学部 教授）  
アシスタント 星野 愛（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  松尾あゆみ（日本社会事業大学 社会福祉学部）  
                  岩崎鮎子（日本社会事業大学 社会福祉学部）

平成 30 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究事業  
「清瀬市“つなぎ”“つむぐ”支援に関する調査」報告  
及び  
ワークショップ

2019(平成 31)年 3 月 発行

作成者: 木村容子(日本社会事業大学 社会福祉学部)  
発行: 日本社会事業大学 社会福祉学部 木村容子研究室  
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘 3-1-30